

消費と貯蓄・投資



ライフプランを  
描いてみる

給与明細書・  
源泉徴収票の見方

消費と貯蓄・投資

お金を借りる、  
お金を返す

コラム1 インターネットを  
活用したパーソナルファイナンス

コラム2 消費者トラブルに  
遭わないために

公的保険と  
民間保険・共済商品

公的年金と  
リタイアメントプランニング

コラム3 金融経済の  
基本を理解する

ライフイベント表・  
キャッシュフロー表を作成する

みんなのトーク

人生の三大支出って、私も本当に必要になるのかな?(汗)

貯蓄って言ったら、給料安いからなあ...

使わなきゃいいんだよ、みんな無駄遣いし過ぎ!

よし、決めた!貯蓄、始めるよ

未来のオレ、お金貯まってる---?

**Q** 若いうちから「貯蓄」は必要ですか?

**A** 社会人になると、「人生の三大支出」などに備え、お金を貯めていくことが大切です。しかし、給料やボーナスを全部使っていては、お金は貯まらないし、増やせません。ここでは家計管理について考えてみましょう。

大切なのは、使う前に貯蓄する習慣

お金は上手に管理して貯めない、人生の中でさまざまな不都合に直面してしまいます。例えば、一人暮らしに必要な費用を賄える貯蓄がなければ、親元から独立もできず、これから予定している旅行や習い事、結婚などのイベントも諦めることになりかねません。

そうならないためには、若いうちから家計の管理が必要です。まずは、「収入」と「支出」の内容を把握すること。その際に有効なツールが、支出総額、支出内訳がわかる「家計簿」です。収入より支出が少ないと当然お金は貯まり、逆に支出が多いと借金や貯蓄の取り崩しをすることになります。

次に、「収入の範囲内で支出をすること」「支出を管理して貯蓄をする癖をつけること」の2点を考えていきましょう。これらを実現するためには、「まず貯蓄ありき」というスタンスが理想的とされます。つまり、給与が入ってきたら、「まず一定額を貯蓄にまわし、残ったお金で支出を賄う」というやり方です。お金を上手に貯めている人ほど、この方法を実践しているとされ、反対に貯蓄の少ない人は、「支出した後で残ったお金を貯蓄する」ケースが多いようです。

収入 - 貯蓄 = 支出可能額

**ワンポイント講座**

お金を貯める習慣を身に付けるために、会社の財形貯蓄制度や金融機関の積立定期制度を利用しましょう。「収入 - 貯蓄 = 支出」が無理なく実践できます。

「貯蓄目標」を作り、その実現を目指す

お金を貯めるには、普段からお金の使い方に気を付けることができるかがポイントとなります。「給与さえ増えれば、貯蓄も増える」わけではありません。だからこそ、「貯蓄目標」をもつことが大切です。何のため、何歳までに、いくら貯めるのか。このように目的や期限、金額を定めると、お金に対する意識が変わります。「結婚資金として30歳までに300万円貯める」など、ライフイベントと関連させた目標設定だとわかりやすいでしょう。

いざというときのためのお金を準備する

急にお金が必要となるケースは、病気やケガによる入院など、いろいろと考えられます。また、失業や転職により給与収入が途絶える場合も、家賃や携帯電話料金の支払いは待ってもらえません。一般的に、緊急予備資金は、最低でも生活費6か月分程度の貯蓄を目指しましょう。「親を頼る」というのは、未成年の考え方です。自分のことは自分で何とかできるよう、少しずつ準備をしていきましょう。

日常の消費行動を分析し、無駄な支出を抑える

世の中には物やサービスがあふれていますが、すべてのものを手に入れられるわけではありません。支出を管理する場合、必要なもの(ニーズ)と欲しいもの(ウォンツ)を区別することが重要です。買い物の際は、費用と購入後の効果を考えながら意思決定を行いましょう。

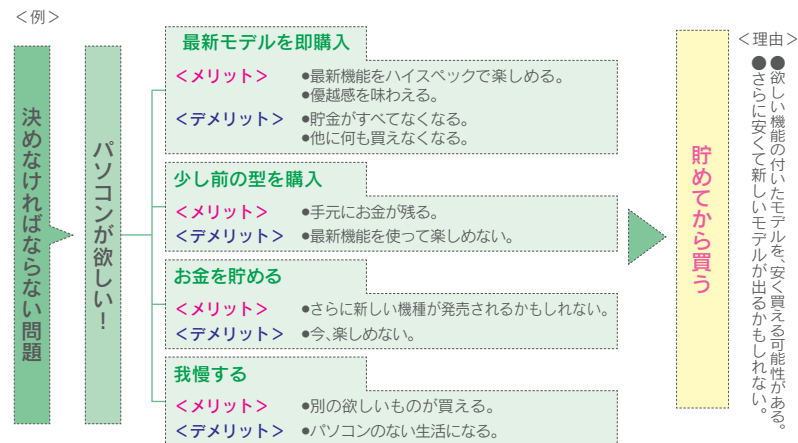
支出の管理に不可欠な「ニーズ」と「ウォンツ」

何か手に入れたいものがあるとき、それが生活に必要なものである場合を「ニーズ」、必ずしも必要ではないが欲しいものである場合を「ウォンツ」といいます。例えば、仕事で最低限必要な衣類は「ニーズ」、休日の旅行やおしゃれ服は「ウォンツ」といえます。貯蓄をしていくためには、自分自身でニーズとウォンツを検討し、購入にかかる費用や効果を考えて行動しなければなりません。それが支出の管理につながります。

意思決定に役立つ「ディジジョンツリー」

ニーズやウォンツを考えながら行動することを「意思決定」といい、それをより合理的に行える手法として「ディジジョンツリー」があります。意思決定のプロセスにおいて、起こり得るすべての選択肢を挙げ、各メリットとデメリットを考えた上で最適なものを選ぶのが特徴です。

- メリット：意思決定をすることでプラスに働く点
- デメリット：意思決定をすることでマイナスに働く点



## 消費と貯蓄・投資

### ▶ 目的別資金計画と種類

長い人生ではいろいろなことにお金が必要となります。中でも大きな支出として、①住宅購入費、②教育費、③老後の生活費があり、これらを一般的に「人生の三大支出」と呼びます。この三大支出のため、早めに準備を始めることがとても大切です。それにより、毎年の貯蓄額も変わります。例えば、65歳で定年を迎えるとして、老後の生活費1,000万円を貯蓄するためには、55歳から準備を始める場合は年間100万円貯めなければなりません、25歳から始めると同年25万円で済みます。

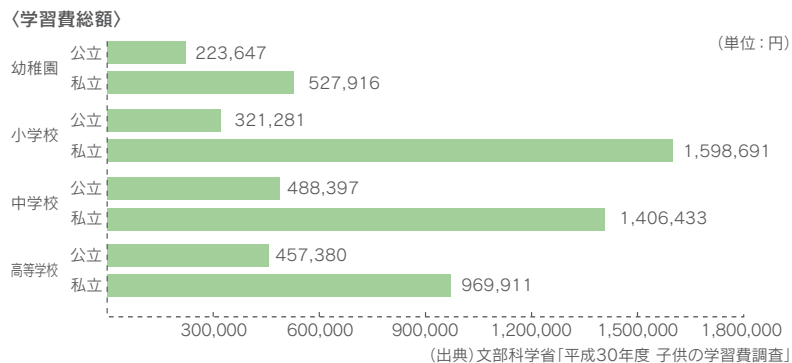
#### ❗ 大きな買い物となる「住宅購入費」

借家住まいも自宅の購入も、住居に関する費用は家計に重くのしかかります。マンションか戸建てか、都心部か郊外かなどによって価格に差はありますが、長い人生において大きな支出であることに変わりありません。賃貸と持ち家、どちらもメリットとデメリットがあるので、よく考えて選択しましょう。住宅取得の資金には、自分の貯蓄、親や祖父母からの贈与のほか、住宅ローンを組む方法もあります。

|           | メリット   | デメリット  |
|-----------|--|--|
| 賃貸        | <ul style="list-style-type: none"> <li>家族構成、職場、住環境の変化に合わせて、柔軟に住み替えができる。</li> <li>収入の増減に対応した家選びができる。</li> <li>物件管理の手間がない。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>家賃を負担する必要がある。</li> <li>自分の財産として残らない。</li> <li>住み替えにより、近所との関係や近隣コミュニティを一から作り直す必要がある。</li> </ul>  |
| 新築<br>持ち家 | <ul style="list-style-type: none"> <li>気兼ねなく住め、「自分の城」を持つという心理的余裕も生まれる。</li> <li>住宅ローンの支払い終了後は、その後の住居費を抑えられる。</li> <li>新築よりも価格が安い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>収入減少時にも、住宅ローンを一定額負担する必要がある。</li> <li>気軽に引越しができない。</li> <li>老朽化したらリフォームや修繕が必要となる。</li> <li>耐久性、耐震性などのチェックが必要。</li> <li>修繕費がかかる。</li> </ul> |

#### ❗ 進学先で大きく異なる「教育費」

子どもが独立するまでの「学費」や「学校外学習費」です。保育園が幼稚園、さらに私立か公立を選択するところから始まり、小・中・高校、大学・専門学校も私立と公立で大きく費用負担額が変わります。家庭環境や働き方、教育方針や教育にかける予算の中で、進学先を決めていきます。教育資金の準備は、預貯金や学資保険のほか、教育ローンや国の奨学金制度、学校や基金などが実施する奨学金制度などもあります。進学時期はあらかじめわかるので、早めに準備するとよいでしょう。



#### ❗ 人生100年時代の「老後の生活費」

今後は従来どおり60代半ばまで働いても、老後が30年以上続き、寿命より先に資産が底をついてしまう可能性があります。働く期間を延ばし、老後を短くすることに加え、早い時期からの資産づくりがポイントです。将来に向けて、少額からでも長期の積み立てを始めましょう。老後資金準備の手段としては、預貯金のほか、個人年金、確定拠出年金(P28参照)などがあります。

#### ❗ 「三大支出」のための資金を貯める方法

三大支出の資金を貯めるには、日常生活の中で貯蓄する意識を持つだけでは難しく、プラスアルファの貯蓄術が必要です。目的・期限・金額などを設定した上で、それぞれの支出の特徴に合わせて貯蓄していきましょう。

##### ◆住宅購入費

財形住宅貯蓄、積立定期などがおすすめです。価格変動がなく、コツコツ確実に資金を貯めていける方法を選択しましょう。

##### ◆教育費

学資保険・子ども保険(共済)、積立定期などがおすすめです。学資保険等は、短期で解約すると損をすることになりますが、満期まで続けていくことで着実にお金が貯まります。また、万一、契約者が亡くなった場合に学資金が受け取れるタイプもあります。小学校、中学校、高校、大学など、進学タイミングに合わせて積み立てを行いましょ。なお、積立定期は毎月決まった金額を積み立てていく預金で、普通預金よりも金利が高く、計画的な資金作りができます。

##### ◆老後の生活費

投資信託の定期積立、個人年金、確定拠出年金制度などいろいろな方法があります。老後までは長い期間があるので、住宅購入費や教育費の準備と異なり、株式など価格変動のある金融商品を取り入れてみることも一つの方法です。金利の低い時代なので、上手に増やすことも検討しましょう。

### ▶ 若いうちは、「自己投資」も積極的に

「自己投資」という言葉には、自分を成長させるために自分へ投資するという意味もあります。仕事に必要なスキルを身に付けたり、資格を取得したりすることにより、単にキャリアアップするだけでなく、人的資産の価値が高められ、その対価ともいえる給与も上がり、収入の安定にもつながってきます。時代の変化が激しい現在、1つの会社や仕事で一生を過ごせる人は少なくなっています。教育訓練給付制度(P24参照)などを活用し、新たなスキルを身につけたり、自らのスキルに磨きをかける等の方法で、今後のキャリアプランを考えてみましょう。